

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスペース

発行人：平賀徹夫
 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
 カトリック仙台司教区事務局
 TEL022-222-7371 Fax022-222-7378
 1) 義援金振替口座：02260-9-2305
 名義：カトリック仙台司教区本部事務局
 2) 支援金振替口座：00170-5-95979
 名義：カリタスジャパン

今回は、仙台教区内の小教区においてチームを編成し、継続的に支援活動をされている方々の記事を2つご紹介いたします。はじめに、カトリック八木山教会 八木山オリーブの会が、カトリック亶理教会を会場に、津波被災者とともに新年会を行った様子をご紹介します。次に、カトリックいわき教会 チーム平・堂根が、災害公営住宅薄磯団地で、「新春フルーツと箏によるふれあいコンサート」を催しましたので、その様子をご紹介します。どちらのチームも、仮設住宅での活動は終えましたが、それぞれの形で被災者の方々に寄り添い、支援活動を続けておられます。最後に、「3.11 東日本大震災 犠牲者追悼・復興祈願ミサ」と「いのちの光 3.15 フクシマ」についてお知らせいたします。ぜひ、この機会に足をお運びいただければと思います。

楽しく美味しい新年会

カトリック八木山教会 八木山オリーブの会 野田 和雄

八木山オリーブの会は、1月25日、津波被災者と共に新年をお祝いしました。会場のカトリック亶理教会には、復興住宅から地元の人々が笑顔で集まってきました。

今回の新年会は、ビンゴ、お抹茶、お餅を食べながらお話しをするという盛りだくさんの内容です。会場となっている亶理教会の聖堂の机や椅子、オルガンの上まで、既にビンゴの景品が並んで準備されています。景品は、多目的釜やめんつゆ、食用油、缶詰、衣類、ハンカチなど、実用品が中心です。八木山教会で、景品用の物品寄付をお願いしたところ、たくさんの支援がありました。参加者は、下見をしながら、どれが欲しいか秘かに決めているようでした。

新年会の始まりは、ビンゴ大会です。「景品は全員分あります！ビンゴになった人から好きなものを選んでください！早い者勝ち～！」その言葉に、ビンゴカードを手に持ちながら、皆さん真剣な表情になり、シーンと静まりました。

一方、台所では、餅、鍋、お抹茶の担当に分かれて準備が進められていました。餅用のあんこ、クルミ、納豆の下ごしらえも始まり、男性も慣れない手つきでお手伝い。餅つき器からは、ちょうど柔らかいお餅が出て来るところです。鍋担当の場所では、すでに野菜たっぷりの鍋がグツグツと煮え、湯気が上がっています。お抹茶も既に準備が終わり、赤や青の菓子が並べられ、抹茶の緑が鮮やかに出番を待っていました。



皆で手分けしての準備作業

「やった～！ビンゴ！」一番最初にビンゴになった人が、嬉しそうに景品選びに立ち上がります。どれにしようか…？ 少し迷ってから景品を手にニコリ。カメラに向かってハイポーズ。そんな人が、3人、4人と続いていきます。景品を提供したスタッフも嬉しそうに見ています。参加者全員が各々景品を手にとると、聖堂は少し落ち着いてきました。

そこで、卒寿を超えた最長老のオリーブの会メンバーが点てたお抹茶を配り始めると、皆さん慣れた手つきでいただきます。「結構なお点前で…」と満足そうです。ゆったりとした気分でも弾みます。



みんなで楽しく美味しく食べる食事は、格別です！

そろそろ昼ご飯？といったちょうど良いタイミングで、あんこ餅の皿が配られました。次はクルミ餅、次は納豆餅…と、自宅のお正月でも食べられないほどの種類の多さにビックリです。牛肉たっぷりの山形風芋煮の鍋にも、餅が入っていて、すっかり満腹です。

復興住宅で寂しく暮らす人々にとって、大勢で楽しい会話をしながら食べることが、何よりの楽しみとなっています。笑顔があふれる会食をマリア像がやさしく見守っているようです。

食卓にいたニコ神父様に、踊りと歌のリクエストがあり、インドネシアの踊りに日本語のかけ声が聖堂に響きます。オリーブの会鈴木さんのギターで歌うメンバーも慣れたものです。「はい、最後の一曲はこれで！」と会を閉めたのは復興住宅のリーダーでした。まるで教会に通う家族のように楽しい笑顔の会は、次の予定2月22日を確認して、終わりました。

亶理町では、被災者全員が復興住宅に移りました。現在、オリーブの会の活動は、復興住宅に住む人々がカトリック教会に足を運び、教会と一緒に楽しい時を過ごす機会となっています。災害支援を続けていたら、心に寄り添うキリスト者の歩みへと変わってきました。

オリーブの会は、教会と教会をつなげ、信徒の働き方と被災者への思いやりをあらかず場になっているようです。この歩みがどこまで続くのかわかりませんが、外に出てゆく教会が互いに補い合っ歩いていきます。

絆という言葉では表現できない、主の働きに思いいたる時、心からの感謝とこれからの恵みを祈らずにはられません。



歌をうたい、穏やかなひと時を共有♪

新春フルーツと箏によるふれあいコンサート・薄磯

カトリックいわき教会 チーム平・堂根 佐々木 三代子

昨年来の福島県沖、また震度6を含む茨城県北部を震源とする地震が多発するなか、原発に何事も起こらないことを祈りつつ、2017年の年明けを迎えました。

この1月27日の平・堂根サロンは、海沿いの災害公営住宅薄磯団地の皆様への初春プレゼントとして、「フルーツと箏によるコンサート」を同団地集会所で開催しました。

いつもは、平・堂根サロンは10時30分から開かれるのですが、この日は10時45分開演です。「フルートと箏によるクラシック・コンサート」と聞いて、興味をもった方々が早くからお集まりくださり、ややかしこまって、開演をお待ちでした。

いざ、その時がきて、大きな拍手で迎えられたゲストのお二人ですが、お箏の野田美香さんは、お背の高い方で、縮緬地に大きな菊花の和柄の上着に黒のロングスカート。フルートの中野久美子さんは、あてやかなエンジのベルベット地のドレス姿で登場なさいました。

演奏はお正月にふさわしく、宮城道雄作曲「春の海」が奏され、聴衆の皆様は、一気に雅な世界に引き込まれました。



フルートの中野さんは、曲目の説明などを巧みな話術でご紹介くださり、参加者の皆さんはうなずきながら、その話に魅了されていました。続いて「さくら」「カッコワルツ」「塞馬」などを聴き、その音色の美しさに心を打たれました。

さらには、ご一緒に「高原列車は行く」を歌い、次に郷土の「会津磐梯山」を手拍子をしながら大声で歌い終えました。日頃から「薄磯合唱団」を自称し、楽しみながら歌っている人々なので、薄磯合唱団の本領発揮とばかり、歌いました。ゲストのお二人からお褒めの言葉をいただき、演奏者、聴衆が一体となって満喫した会場には、幸せそうな皆さんの笑顔があふれていました。

あれよあれよという間に時は過ぎ、アンコールとして「ふるさと」が演奏されました。またご一緒に「兎追いしかの山 小鮎釣りしかの川 夢は今もめぐりて 忘れがたき 故郷」と歌いつぐうちに、薄磯の方々も、久之浜からいらっしゃった方たちも、おのおのが来し方を思い、亡くされたご家族との思いもよみがえってこられたのでしょうか、感極まって涙をぬぐわれる方もおられました。このような時、私たちは確たる言葉も持ち合わせず無力ですが、この方々の思いも神様は、まるごと受けとめてくださっておいででしょう。私たちもできるかぎり寄り添い続けていきたいと願っております。

このコンサートにより、心が洗われるひとときを過ごし、お帰りになられる皆様は一樣に、清々しい表情をなさっていました。この演奏会はまことに不思議な力をもって、文字通り皆様の琴線に触れるすばらしい機会となったことに感謝いたしました。



演奏者のお二人と参加者で記念撮影

カトリック仙台司教区 3.11 東日本大震災 犠牲者追悼・復興祈願ミサ



日時：2017年3月11日(土) 14:30～

場所：仙台教区カテドラル

カトリック元寺小路教会 大聖堂

司式：平賀 徹夫 仙台司教

*これまで継続的に復興支援活動に携わってくださっている方に、短い時間ですが、お話をさせていただく予定です。今後の支援方法や活動のご参考になるかと思えます。また、ミサ終了後、信徒ホールにて、お話をしてくださる方々との交流会を行いますので、ぜひご参加ください。よろしくお願いたします。

《お問い合わせ》

仙台教区サポートセンター 022-797-6643

宮城県仙台市青葉区本町1-2-12 カトリック元寺小路教会2F

いのちの光 3.15 フクシマ ～生業を取り戻そう、地域を取り戻そう、 人間らしさを取り戻すために～

【講演会】

日時：2017年3月12日(日) 13:30～16:00 (13時会場)

会場：カトリック郡山教会(福島県郡山市虎丸町13-1)

講師：馬奈木 徹太郎 氏

(「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟 弁護団事務局長)

「いのちの光 3.15 フクシマ」

日時：2017年3月15日(水) 13:30～16:00

会場：カトリック原町教会(福島県南相馬市原町区橋本町1-15)

～ミサ～ 司式：仙台教区 マルチノ平賀 徹夫 司教

～現地の声～ 講師：片平 芳夫 氏(片平ジャージー自然牧場主)

※両日とも申し込みは不要です。(参加費はカンパでお願いします。)

主催：「いのちの光3.15 フクシマ」実行委員会

福島県南相馬市原町区橋本町1-15 カトリック原町教会内

代表：勝冶(かつや)

問合せ TEL: 080-9634-2587(栗村)

メール inochinohikari315@yahoo.co.jp

*原発事故について、福島だけに限定せず幅広い社会問題として捉えるため「フクシマ」という表記が用いられています。

熊本地震支援金、東日本大震災に対する募金の受付は、現在も、引き続き行っております。

今後とも、多くの皆さまのご支援・ご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いたします。

ニュースレターのメール配信をご希望の方は、お名前などをご記入の上、sdscokoho@gmail.comまでメールをお送りください。次号よりお送りさせていただきます。多くの方に活動状況や被災地の現状を広めていただけますようお願いいたします。